

2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	教授	矢内 淑子
最終学歴	学 位	専門分野
国立音楽大学院音楽研究科声楽専攻修士課程修了	修士 (芸術学)	声楽、音楽教育

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

専門教育として、子どもに音楽を指導する際の必要な音楽基礎能力（音楽的感性、表現力、技能）や、子どもの音楽的発達や表現活動を観る目を育成するとともに、自ら主体的な学びができるようにする。

(計画)

①「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」では、保育・教育の基礎技能としてのピアノ演奏技術の習得するために、学生の進度に合わせた少人数による個別指導と音楽基礎理論（楽典）の授業を併用して行うことで、音楽理解を深め、学生の意欲・向上に繋げる。②「音楽表現技術」では、子どもの発達を促す保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技能として、子どもの音楽表現活動に適した教材選択力や、子どもの歌や弾き歌いを中心に学ぶ。③「音楽Ⅲ」は、これまで音楽関係授業で学んだ保育内容理解を深めると同時に、保育者として保育現場で子どもの音楽的表現活動を支えるための音楽表現能力や感性を高める授業内容、実習や就職を意識した教材研究も取り入れる。④「総合表現技術」は、表現科目「身体表現」「音楽表現」、「造形表現」担当の教員で行う。これまで個々の表現科目で学んだ知識・技術を統合して、表現活動に係る教材の活用と作成を通して、保育環境構成や遊びの展開のための実践をグループ発表形式で行う。⑤「総合演習Ⅰ・Ⅱ」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」では、学生が興味・関心持って臨めるように、個々の研究課題を持ちながらグループでも音楽教材研究を行う。さらに、児童を対象にした行事を計画・実施して、実践力を付ける。⑥「専門演習Ⅲ・Ⅳ」は、個々に関心のあるテーマについて調査・研究をして、その成果を論文や制作として発表する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）音楽Ⅰ、音楽Ⅲ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）音楽表現技術、総合表現技術、音楽Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

①音楽Ⅰ・音楽Ⅱの授業では、保育士・教員を目指す学生としての目的と概要、到達目標を踏まえて、学ぶべきピアノ演奏曲目、楽典内容を提示し、ピアノ演奏と楽典で学ぶべき内容を関連づけながら分かりやすく説明することを徹底して行い、今まで以上に自分の力でピアノ演奏技術を高める道筋を示すようにした。さらに、曲の理解やイメージを表現に繋げるために、ラー、アーでの唱法やリズムを動き通して体感できるような方法で、音楽理解に繋がれた。音楽Ⅱでは無理のない指のトレーニングとして、大人のハノンから抜粋して使用したことも腕の脱力と音の変化に気付く一助となった。前期・後期各2回、クラス全員で互いの演奏を聴き合い、自他の課題を記入することで、表現の本質の理解に繋げることができた。②音楽Ⅲでは、保育者の資質として必要な演奏技術、音楽表現能力、音楽的感性を総合的に高めることで、保育現場における子どもの

感性により影響を与えることができる保育者を育成することにある。1・2年生で習得したピアノの音楽表現能力のみならず、保育者として子どもの音楽表現を支えるための音楽教材研究（手遊び・わらべうた・絵描き歌・日本の伝統的な遊び他）、楽器演奏、指揮、リトミック教育の理論や実践を学び、グループで模擬保育を行い、振り返りをすることができた。③総合演習Ⅰ・Ⅱでは、乳幼児の音楽表現理解の上に立って、学生の興味関心のある教材研究（伝承あそび、楽器演奏、ピアノ演奏、手遊び、ペープサート、歌唱）を行い、地域の子どもたちを招いて行う大学祭のキッズ広場や名東児童館のクリスマス会を企画・実施し、最後の演習授業でポスター発表を行うことができた。さらに、地域と連携した授業・活動報告会で、クリスマス会の企画・実施計画、作成物の展示、ポスター発表をすることで、学びを深めることができた。④音楽表現技術では、幼児教育コース（必修）・初等教育コース（選択）の学生で幼稚園実習を履修する学生は全員履修するように指導した。1年生で培った音楽表現技術を確かなものにするだけでなく、ピアノを使用した子どもの歌の弾き歌い・歌唱を中心に学び、レパートリーを増やすように指導した。弾き歌いが苦手な学生には基本コード進行C・F・G・G7を提示し、簡単な歌でも簡易伴奏で弾けるように示すことで、達成感ややる気を促した。中間・最後の発表では、互いの弾き歌い・歌を聞くことで、互いの課題を共有し、音楽能力の育成に繋げる。⑤総合表現技術では、身体表現、音楽表現、造形表現で学んだ知識と技術を統合して、表現活動にかかる教材の活用と作成を通して、保育環境の構成や、遊びの展開のための実践を行う。今年度は、現場の発表会等で使用できる脚本を書き方（テーマ、キャラクターの設定、ストーリー構成、箱書）を提示し、グループでイメージを共有しながら進めるようにして、最終授業で近隣の幼稚園園児を招いて、グループごとに発表したことで、より総合表現の理解を深めることができた。⑥専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱでは、自らが興味・関心のある事柄について、資料・文献を収集・講読・発表することで問題意識を共有して醸成することで、自らのテーマを見つけることができた。また、名東児童館において2年生と協働してクリスマス会に参加し、保育実践力を高めた。⑦専門演習Ⅲ・専門演習Ⅳでは、研究計画に基づいて取り組み、調査・文献・情報を整理し、数名ずつ学びの過程と成果をまとめ発表することができた。特に専門演習Ⅳでは、専門演習Ⅲに続く演習として、個別指導を中心に行い、論文指導に努めた。

○作成した教科書・教材

なし

○自己評価

①音楽Ⅰ・音楽Ⅱでは、昨年に引き続きシラバスの授業概要で学ぶべきバイエルの曲番と内容を具体的に提示することで、学生にとっては目標を持って臨めるようになり、バイエルの進度を早めることができた。一方、ピアノ初心者や苦手意識を持つ学生にとっては、教員も学生の素質・進捗状況を考慮しながら選曲するものの、バイエル前半で苦慮する学生もいた。楽典については、昨年度の反省を踏まえ、今年度は音楽Ⅰのみで楽典の基礎の部分を中心に行ったことで、楽曲理解に繋げることができた。次年度の音楽基礎は楽典をクラス授業にして、リズム練習の実践や子どもの歌を教材にすることで、個々の音楽技術能力を高めるべく検討していく。②音楽Ⅱは、再履修者クラスを担当した。個々の進捗の合わせて無理のない指のトレーニングとして、大人のハノンから抜粋して使用して腕の脱力と音の変化に気付くことで、毎日少しずつ自己練習ができるようになり、よい成果へと繋がった。③音楽Ⅲでは、幼稚園実習があるため弾き歌いの課題をする時間を多くとることになり、音楽教材研究の時間を縮小することになった。また、リトミック教育については保育実践に繋がる内容を検討していきたい。④総合演習Ⅰ・Ⅱでは、学生自身で担当を決めて計画した行事を通して多くの経験知を得たと考えるが、グループ活動の意義と実践、

方法の提示、綿密な授業計画不足は否めない。④音楽表現技術では、今年度は初等教育コースで幼稚園実習を履修する学生にも履修指導したことは、評価したい。ピアノに苦手意識を持っている学生にはコード進行C・F・G・G7コードを徹底して指導し、簡単な歌でも簡易伴奏で弾けるようにした。さらに今後、候補曲の選曲、伴奏付け形態・採点方法を3段階評価にするなど検討して、学生にとって取り組みやすく、やる気に繋げるようにしていきたい。⑤総合表現技術では、脚本の資料を提示、近隣の幼稚園園児を招いて発表したことで、一部の学生を除き、モチベーションを維持することができ、学生自身もグループ運営の難しさ・楽しさ、身体表現・音楽表現・造形表現で学んだことをどこで生かすことができているか少しずつ理解しながら行うことができた。⑥専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱでは、同じ文献を購読し、自らが興味・関心のあるテーマについて示すことはできたが、資料・文献を収集して検討し、テーマを再考するところまでには至らなかった。名東児童館において2年生と協働してクリスマス会に参加して、音楽教材に関わる実践力を高めることができた。4年生は教育実習、就職活動で忙しい時期でもある。今年度の反省を踏まえて、3年次において論文作法についての基本を段階的に学びながら、テーマの沿った文献を集めて、まとめるように指導していきたい。⑦専門演習Ⅲ・専門演習Ⅳでは、研究計画に基づいて取り組み、調査・文献・情報を整理し、数名ずつ学びの過程・成果をまとめ発表することができたが、個別指導に移行した段階で、前半の学びが上手く移行できなかった。これまで3年次では行事参加も行ってきたが、3年次から段階的に卒業論文を仕上げていく過程を大事にしていきたい。

Ⅱ 研究活動

○研究課題

1. 保育士・教員養成課程の表現科目に関する研究。
2. 保育士・教員養成課程における音楽授業研究
3. 保育士・教員養成課程における歌唱研究
4. 演奏・指揮活動

○目標・計画

(目標)

1. 継続研究として、「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法Ⅳ」と題して行う。ヴィゴツキーの最近領域を応用して、音楽表現、身体表現、音楽表現の3教科を受講して、学生が各教科の何を身に着けたか調査し、3教科の共感的要素を見つける。保育士・教員養成校の学生が、その表現科目を利用して表現力をのばすことのできる教材・環境は何かについてまとめる。
2. 「保育士・教員養成校における楽典指導～「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」のピアノ表現を深めるために～」の継続研究として行う。
3. 保育士・教員養成課程における子どもの歌について検討する。
4. オペラ、演奏活動

(計画)

1. 音楽表現・造形表現・身体表現の担当者と共に、学生がそれぞれの授業を受講して何を身につけたかアンケート調査結果を集計し、ヴィゴツキーの最近領域を応用して、音楽表現・造形表現・身体表現の共感的要素をまとめる。
2. 今回の成果としては、僅かではあるが読譜力の基礎理解、音楽的興味・意欲の向上、楽譜の理解を促すなど効果は見られたが、楽典の内容・個別レベルでの対応等に課題もある。そこで、今期の楽典の授業内容を検討・実施し、学生アンケートによる理解度を調査する。

3. 現在出版されている子どもの歌本や現場で使用されている歌本について調査する。

4. 自らの専門を生かしたソロ活動、日本のオペラ活動を行う。

○2011年4月から2019年3月の研究業績（特許等を含む）

（学術論文）

- ・ 矢内淑子・酒井国作・藤田桂子・夏目佳子・鷺見鶴子、久野明子「保育士・教員養成課程における楽典指導～「音楽Ⅰ」・「音楽Ⅱ」のピアノ表現を深めるために～」
- ・古市久子・新實広記・矢内淑子・伊藤数馬「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的感覚を使った教授法Ⅲ～造形表現の授業分析を通して～」愛知東邦大学紀要『東邦学誌』第46号第1号（2017年6月）
- ・古市久子・矢内淑子・伊藤数馬・新實広記「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的感覚を使った教授法Ⅱ～授業実践を通して～」愛知東邦大学紀要『東邦学誌』第45巻第2号（2016年12月）
- ・古市久子・矢内淑子・新實広記・伊藤数馬「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法Ⅰ－保育実践教科書を分析する－」愛知東邦大学紀要『東邦学誌』第44号第2号（2015年12月）
- ・矢内淑子・古市久子：「保育者養成機関におけるソルフェージュ力の育成」愛知東邦大学紀要『東邦学誌』第44巻第1号（2015年6月）
- ・矢内淑子・古市久子：領域「表現」から教科「音楽」「体育」への連続性に関する課題の検討。愛知東邦大学紀要『東邦学誌』41巻第3号（2012年12月）

（学会発表）

- ・柴田好章・付洪雪・福島孝・中島淑子・鈴木稔子・近藤茂明・矢内淑子「子どもの発言を基に構成される授業分析（1）－単元を通じた個の思想の変容過程との要因を中心に－、日本教育方法学会51回大会（2015年10月）
- ・矢内淑子・古市久子：「リズム感を通じたソルフェージュ力の育成（Ⅲ）」日本保育学会第68回大会、椙山女学園大学（2015年5月）
- ・矢内淑子・古市久子：「リズム感を通じたソルフェージュ力の育成（Ⅱ）」日本保育学会第67回大会、大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学（2014年5月）
- ・矢内淑子・古市久子：「リズム感を通じたソルフェージュ力の育成」日本保育学会第66回大会、中村学園大学・中村学園大学短期大学部（2013年5月）
- ・矢内淑子：「拍感の消失－歌唱を通して－」日本保育学会第65回大会、東京家政大学（2012年5月）

（その他）

<リサイタル>

- ・日本歌曲連続演奏会「矢内淑子メゾソプラノリサイタル～中田喜直の世界～」ピアノ：安田正昭、会場：岡山県立美術館ホール（2012年3月）

<オペラ>

- ・創作オペラ「忠臣蔵」戸田役。名古屋演奏家ソサエティー主催。作曲：森 彩音、指揮：濱津清仁、台本・演習：渕本晴都子。会場：名古屋市芸術創造センター（2018年12月22日・23日）
- ・【芸創コラボ】オペラ「藤戸」波の精役。名古屋二期会・名古屋市芸術創造センター連携企画公演。作曲：尾上和彦、原作：有吉佐和子、指揮：奥村哲也、演出：堀口文成。会場：名古屋市芸術創造センター（2018年3月3・4日）
- ・受け継がれゆく唄（日本民謡集～川口耕平による～）、編曲：川口耕平、指揮：小原恒久。会場：（2018年3月3・4日）

- ・名古屋ソサエティー35周年記念オペラジャパネスク「閻魔街道夢ん中」、おとよ役。作曲：森 彩音、台本・演出：湊本晴都子、指揮：高谷光信、主催：名古屋ソサエティー、会場：名古屋市芸術創造センター（2016年12月）
- ・創作オペラ「桜幻想」、母お静役。作曲：森 彩音、台本・演出：湊本晴都子、指揮：金丸克己、主催：名古屋ソサエティー、会場：名古屋市芸術創造センター（2015年5月）
- ・創作オペラ：「古事記～矢岐の大蛇～」、キクリ姫。作曲：森彩音、台本・演出：湊本晴都子、指揮：高谷光信、主催：名古屋演奏家ソサエティー、会場：名古屋能楽堂（2014年2月）。
- ・創作オペラ「荒城の月」、廉太郎の母（まさ）役。作曲：森彩音、台本・演出：湊本晴都子、指揮：澤脇達晴、主催：名古屋演奏家ソサエティー、会場：名古屋市芸術創造センター（2012年12月）。
- ・創作オペラ「おんな忠臣蔵」、たん役。作曲：森彩音、台本・演出：伊豫田静弘、指揮：倉地竜也、主催：アド・フォンテス、（公財）名古屋市文化振興事業団、会場：名古屋市芸術創造センター（2011年12月）。
- ・オペレッタ「天国と地獄」、世間役。作曲：ジャック・オッフエンバック、演出：たかべしげこ、指揮：曾我大介、名古屋二期会 2011年オペラ定期公演、愛知県文化振興事業団第291回公演。主催：一般社団法人名古屋二期会、（財）愛知県文化振興事業団、愛知芸術文化センター、会場：愛知県芸術劇場大ホール（2011年10月）。

<演奏・研究発表>

- ・全国大学音楽教育学会第34回全国大会、《仙台大会》研究演奏会出演。主催：全国大学音楽教育学会、会場：仙台ガーデンパレス。（2018年8月）
- ・クリスマスコンサート。主催・会場：聖イエス会使徒教会（2008年～2017年12月）。
- ・東日本大震災チャリティーコンサートに出演。主催：一般社団法人名古屋二期会、会場：電気文化会館ザ・コンサートホール。（2011年4月、2013年3月～2015年3月）
- ・総社芸術祭 2015P&B ジョイフル・コンサート～吉備から発信する日本の歌～。主催：総社市・総社市教育委員会・第2回総社芸術祭 2015実行委員会、会場：総社市民会館（2015年5月）
- ・歌の玉手箱～懐かしき家路へ～童謡の世界、～心に残る懐かしき愛唱歌～。主催：名古屋二期会、会場：しらかわホール（2011年9月～2012年9月、2013年11月、2015年11月～2017年11月、2018年8月）
- ・全国大学音楽教育学会第30回全国大会《東京大会》研究演奏会出演。主催：全国大学音楽教育学会、会場：音楽の友ホール。（2014年8月）。
- ・岡山混声合唱団第66回定期演奏会。「オペラコーラス・アラカルト」アルトソリスト。主催：岡山混声合唱団、会場：岡山市立市民文化ホール（2012年10月）
- ・愛光園創立20周年記念演奏会「Love&Brilliance」。主催・会場：（福）鴻仁福祉会、特別養護老人ホーム（2012年6月）。
- ・全国大学音楽教育学会第27回全国大会《東北・裏磐梯大会》研究演奏会出演。主催：全国大学音楽教育学会、会場：裏磐梯ロイヤルホテル（2011年9月）。

<審査・講評>

- ・第85回NHK全国学校音楽コンクール愛媛県コンクール審査員。主催：NHK松山放送局・全日本音楽教育研究会・日本教育音楽協会愛媛県支部、会場：松山市民会館大ホール
- ・第76回～第86回NHK全国学校音楽コンクール岡山県大会審査員。主催：NHK岡山放送局・全日本音楽教育研究会・日本教育音楽協会岡山県支部、会場：岡山市立市民文化ホール・岡山市建部文化センター（2010年8月～2018年8月）

- ・第 43 回・44 回・第 49 回・50 回、第 51 回、53 回、岡山県学生音楽コンクール本選審査員。主催：岡山県高等学校音楽協議会、会場：くらしき作陽大学（2014 年 8 月～2016 年 8 月、2018 年 10 月）
- ・第 67 回岡山県合唱コンクール審査員。主催：岡山県合唱連盟、朝日新聞、会場：岡山市立市民文化ホール（2014 年 8 月）
- ・第 67 回岡山県合唱フェスティバル講評。主催：岡山県合唱連盟、会場：岡山シンフォニーホール（2014 年 6 月）。

<指揮>

- ・第 61 回～第 69 回岡山県合唱フェスティバル。主催：岡山県合唱連盟、会場：岡山シンフォニーホール（2010 年 6 月～2018 年 6 月）
- ・第 34 回～第 43 回記念倉敷合唱フェスティバル。主催：倉敷市合唱連盟・倉敷市文化連盟。会場：倉敷芸文館、倉敷市民会館ホール（2010 年 12 月～2019 年 1 月）
- ・第 15 回おかやま県民文化祭参加事業、倉敷市 50 周年記念市民発案事業「コーラスふるさとを歌う」主催：倉敷文化連盟、コーラス「ふるさと」を歌う実行委員会、協賛：倉敷市、会場：倉敷市民会館（2017 年 11 月）
- ・女声合唱団萌え木第 3 回定期演奏会。主催：女声合唱団萌え木、会場：岡山県立美術館ホール（2017 年 10 月）
- ・瀬戸内混声合唱団第 17 回定期演奏会—チャレンジコンサート—主催：瀬戸内混声合唱団、共催：倉敷市文化連盟、会場：児島市民交流センタージーンズホール（2017 年 5 月）
- ・女声合唱団萌え木第 2 回定期演奏会。主催：女声合唱団萌え木、共催：倉敷市文化連盟、会場：岡山県立美術館ホール（2016 年 1 月）
- ・倉敷市東公民館文化展コンサート。主催・会場：倉敷東公民館（2009 年 11 月～2015 年 11 月）
- ・第 13 回サンセットフェスタ in こじま。主催：サンセットフェスタ in こじま実行委員会、会場：鷲羽山第二展望台（2015 年 9 月）
- ・第 34 回～第 41 回倉敷サマーコンサート。主催：倉敷市文化連盟・倉敷市合唱連盟、会場：倉敷アイビースクエア（2008 年～2016 年 8 月）
- ・瀬戸内混声合唱団創立 30 周年記念演奏会。主催：瀬戸内混声合唱団、会場：倉敷市児島文化センター（2015 年 1 月）
- ・女声コーラスアンコーラ The10thAnniversary Concert。主催：女声コーラスアンコーラ、会場：倉敷市立美術館ホール（2014 年 9 月）
- ・女声合唱団萌え木第 1 回定期演奏会。主催：女声合唱団萌え木、会場：岡山県立美術館ホール（2014 年 4 月）
- ・岡山県ヴォーカルアンサンブルコンテスト。主催：岡山県合唱連盟、会場：岡山シンフォニーホール（2012 年 2 月、2013 年 2 月）
- ・女声合唱団萌え木 Christmas Concert。主催：女声合唱団萌え木、会場：日本福音ルーテル岡山教会（2012 年 11 月）
- ・第 10 回おかやま県民文化祭メインフェスティバル。主催：岡山県・おかやま県民文化祭実行委員会、会場：倉敷芸文館大ホール（2012 年 9 月）
- ・東北の皆さんへ、わたくしたちのうたごえを届けよう!!～フォーレのレクイエム（抜粋）を歌おう。主催：東邦学園歌声サークル、会場：東邦高校（2012 年 5 月）
- ・第 9 回おかやま県民文化祭メインフェスティバル。主催：岡山県・おかやま県民文化祭実行委員会、会場：岡山市市民会館大ホール（2011 年 9 月）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

名古屋二期会会員、日本保育学会会員、日本音楽教育学会、日本音楽表現学会、日本学校教育実践学会会員、全国大学音楽教育学会会員、日本教育方法学会会員、日本音楽療法学会会員

○自己評価

教員や保育士の採用試験は地域差があるが、ピアノ演奏や弾き歌いの試験の他に、教科として音楽科の試験が課せられることがある。近年本学の入学生はピアノ未経験が多く、読譜の点で困難を感じる学生が多いのが現状であり、少しピアノ経験があったとしても、楽譜の読み方に関する部分「楽典」に対する理解度の差が顕著である。これまで本学では、「楽典」は、「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」におけるピアノ個人レッスンの中でピアノ技術の習得に合わせて指導してきたが、無理があった。そこで、今年度は、保育士・教員養成課程における音楽授業研究として、「保育士・教員養成課程における楽典指導～「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」のピアノ表現を深めるために～」と題して、東邦学誌第47巻第1号（2018年6月10日発刊）において問題の背景を探り、現状と課題をまとめ、2019年度からの授業運営に反映することができた。今後、さらに指導方法の改善について検討していきたい。

専門分野では、日本の創作オペラに毎年1本参加している。新作オペラ上演は、経済的・人的な問題を抱えており、上演が難しいのが現状である。日本で生まれた総合芸術であるオペラが、世界へ発信されることを願っている。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

（目標）

全学委員会で与えられた委員を全力で務め、関係者と連携して大学運営に貢献する。教育学部子ども発達学科の教員として、担当業務を果たす。大学が関係する学内外や課外活動に積極的に参加する。

（計画）

学生委員会の副委員長、学生寮運営委員会副委員長、人権問題委員会委員として大学の方針を理解し、各委員会が抱える問題・課題解決に向けて責務を果たす。教育学部子ども発達学科の分掌に従い、幼児教育コース担当教員として、より良い保育士・教員を育てるべく責務を果たす。愛知東邦大学吹奏楽団の部長、団の活動状況の把握や学生指導を努めるとともに、大学のよいイメージ作りに貢献する。

○学内委員等

人権問題委員会委員、学生委員会委員、学生寮運営委員会委員、幼小教職委員会委員、保育士養成課程委員会委員、愛知東邦大学吹奏楽団顧問（部長、強化指定クラブ）

○自己評価

人権問題委員会委員として委員長・関係教職員と共に、相談事例に関して「人権侵害の防止等に関する規程」および対応フローを確認、対応した。人権侵害、問題に対する啓発活動については資料収集にとどまったが、現代社会においては「人権問題」は重要かつ身近な問題である。今後、日常生活に生起する身近な話題から学生と考えることが重要であると考えている。

学生生活委員会委員として委員長・関係職員と共に重要課題について検討し、概ね達成することができた。担当業務である生活指導（マナー教育）については、前後期のガイダンスで学生委員会資料・キャンパスガイドを基に、学年別に要点を踏まえて注意喚起を行った。本年度は、近隣

住民から本学学生への苦情やその他の問題に関する注意・指導がなかった。委員会としても嬉しいかぎりである。前後期のガイダンスで禁煙ルール・マナー指導、違法・迷惑駐車違法駐車について注意喚起を行い、懲戒処分の規則を運用して継続的に取り組んできた成果と考える。2020年3月に受動喫煙防止法が施行されるのを受けて、今後も生活指導に関する重点項目を伝えることで、学生が過ごしやすい大学、社会の一員としての自覚を持てるようにしていきたい。

「TOHO Learning House」は3年目を迎え、寮生で取り組む度合いに差があるものの、地域に根差した連携活動、他大学との交流プログラムの実施、学内外の発表・報告会への参加等、安定的な運営が可能になり、寮生活の基盤作りができたと考えている。学生寮運営委員会委員としては、寮の行事への参加、寮生との関わりを持つことを心掛けたい。

愛知東邦大学吹奏楽団は、今年2名の学生が学長表彰、保育者養成協議会表彰を受けることができた。団員数の少ない中で、大学の行事、クラブの応援、地域のさまざまなイベントの他、昨年からは東邦公式バンド TOHO MARCHING BAND 活動も加わり、年間の演奏回数が約44回とである。今後4年生が6人卒業して9人での活動となり負担も多くなってくる。今後も継続的な支援をしていきたい。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

従来に引き続き地域活動に参画したいと考えている。学生達と一緒に地域のイベントに積極的に関わり、地域社会の文化向上に貢献する。

(計画)

高大連携授業、教員免許講習、保育士試験採点委員、学生音楽コンクール、合唱審査活動を行う。学生とともに地域社会と連携した行事を企画、実施する。合唱団指導や指揮活動、審査活動を行う。

○学会活動等

全国大学音楽教育学会第34回全国大会、《仙台大会》研究演奏を担当。

○地域連携・社会貢献等

- ・「保育者・教員養成における歌唱表現指導法」と題して教員免許講習の講師を担当(2018年8月)。
- ・名東児童館からの依頼を受け、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱの学生達で「名東児童館クリスマス会～みんなでハッピークリスマス」を開催(2018年12月)。
- ・平和が丘小学校PTA土曜企画「作ってみよう自分だけの楽器！奏でてみよう楽しいリズム♪」と題して、平和が丘小学校体育館で音楽ワークショップを開催(2019年1月)。
- ・総合演習Ⅱの学生達で、愛知東邦大学地域連携委員会主催「地域連携した授業・活動報告会」で名東児童館の行事についてポスター発表をした。地域貢献賞を得る。(2019年2月)

○自己評価

教員免許講習では、歌唱表現活動を通して、楽曲や歌詞の内容のイメージを表現に繋げる歌唱法を体験的に学習し、今後の実践的な指導に生かしてもらおうねらいで行った。4コマ続きで行ったためペース配分に苦慮した。今後も内容の検討を行いながら有意義な講座になるよう努めたい。今年も名東児童館からの依頼があり、総合演習・専門演習の学生と協働して第4回目のクリスマス会を実施することができた。幼児・小学生を前にしてプログラムを実践することで、学生にとっても自らの表現力について考えるよい機会になると同時に、自主性、責任感を育むことができたと考える。平和が丘小学校PTA企画は、児童34名の参加があった。前半でいろいろな音色や

リズムを体験してもらい、最後に保護者も一緒に全員で、学生の打楽器、講師のマリンバ・ピアノでエル・クンバンチェロの音楽で協演することができた。学校・学年により子どもたちの理解度・実践力の違いが分かり、今後の実践に役立てていきたい。ここでも総合演習・専門演習の学生、他の教育学部の学生の手伝いがあった。

教育学部として地域と連携した授業・行事活動は、社会貢献であると同時に、教員養成糧において、真に信頼して事を任せうる人格の育成にあるように、責任感がある「真面目」に物事に取り組むことができる広い教養と深い専門知識を持った学生の育成に繋がってくると考える。その他、教育学部教員として、専門性を生かした活動、演奏活動、合唱指揮活動、コンクールの審査員、保育士試験視点委員として、地域における文化向上に微力ではあるが貢献することができたと考ええる。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）
特になし

VI 総括

教育活動、研究活動、大学運営、社会貢献、十分ではないがバランスを維持しながら行うように心掛けた。教育活動については、新任の音楽教員と、音楽Ⅰ・音楽Ⅱ・音楽表現技術の授業改善に努めることができた。また、非常勤講師を巻き込んだ研究を重ねることで、教職課程再課程認定のカリキュラム「音楽基礎」において、ピアノレッスンと並行して楽典のクラス授業を行うことが可能になった。今年度は、保育士・教員養成課程の表現科目に関する研究課題を成果としてまとめることができなかったが、継続的に行っていきたい。地域連携行事としては、学生の実践力を育成するためにも、新たな場所を検討していきたい。今後も、実践力のある保育者・教員を育成するために、これまで以上に研鑽に努めたい。

以 上